

一般社団法人日本パラ陸上競技連盟

2026 – 2030

中長期計画

2026年3月31日



はじめに

挑め未来!

JPA

JAPAN PARA ATHLETICS

私たちは、2023年の日本パラ陸上競技連盟と日本知的障害者陸上競技連盟の統合を経て、日本初の身体障がいと知的障がいの競技を統括するパラリンピックスポーツの中央競技団体として、真に多様性を包摂する社会の実現を目指して歩み始めました。

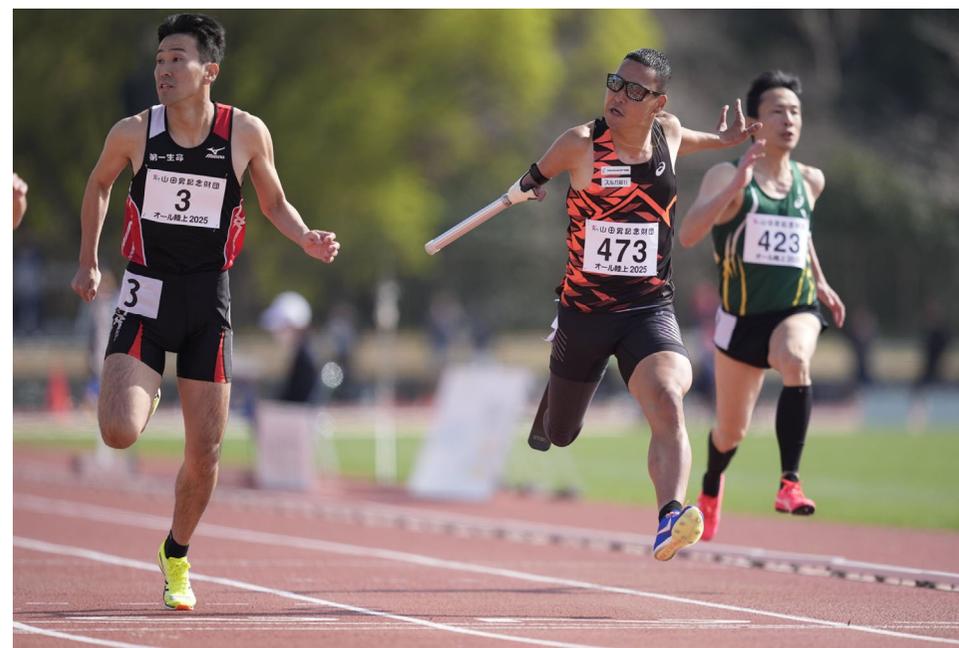
スポーツ基本法の理念である「スポーツを通じて国民が生涯にわたり心身ともに健康で文化的な生活を営むことができる社会の実現」を土台とし、陸上競技が一人ひとりの人生を豊かにし、地域社会を活性化させる原動力となるよう取組みます。

「陸上競技という一つの家に暮らすファミリー」という強い信念のもと、全てのステークホルダーへの責任を全うし、誰もが等しく挑戦できるインクルーシブな未来を創造します。



2026-2030 未来ビジョン

陸上競技で、誰もが主役のインクルーシブな未来を創る
～誰もが等しく挑戦し、地域と世界をつなぐ『Family』として～



新・ミッション：4つの経営目標

挑め未来!

JPA
JAPAN PARA ATHLETES

01 競技普及

生涯にわたる「出会い」と「パスウェイ」の創造

医療・自治体・地域社会との連携を深化させ、「スポーツ処方」や「地域パスウェイ」を構築する。誰もが「いつでも・どこでも・だれとでも」陸上競技を楽しめるコミュニティを実現する。

02 選手強化

科学と卓越の追求

大学との共同研究を核に、個々の可能性を最大化する強化体系を確立し、パラリンピックでの金メダル・メダル2桁獲得を実現する。

03 競技環境の充実

公平で開かれたプラットフォーム

障がいやレベルを超えた公平な競技機会を全国で展開する。各地域パラ陸協との関係を整備し、また日本陸連（JAAF）や地域陸協との連携により、誰もが挑戦できるインクルーシブな競技インフラを整備する。

04 強固な組織体制

共生社会への投資価値の創出

初の身体・知的の統合団体として「社会的責任」と「投資価値」を社会に発信する。さらなる協賛金の安定確保を通じて、持続可能で透明性の高い組織経営と地域社会への還元を実践する。

競技普及：会員数1,000名への『地域パスウェイ』

挑め未来!

JPA

JAPAN PARA ATHLETICS



医療・自治体・地域の三位一体連携

- 医療：病院からの『スポーツ処方』による競技導入
- 自治体：都道府県・市区町村と連携した潜在的選手の発掘・育成
- 地域：パラ陸上競技のリソースの整理と誰もが『いつでも・どこでも・だれとでも』始められる環境整備

目標：パラリンピックスポーツ競技団体初の 会員数 1,000名の達成

- 地域パスウェイにより、障がいのある全ての人が陸上競技に出会える機会を最大化する。



選手強化：大学連携による『科学と卓越』の追求

挑め未来!

JPA

JAPAN PARA ATHLETES

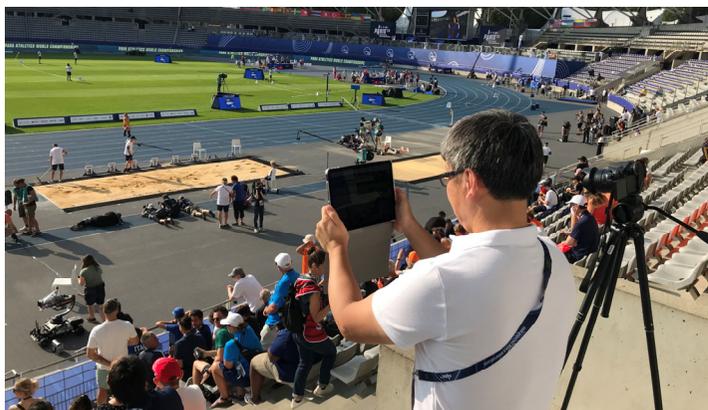


大学との共同研究による医科学強化

- 個々の身体・知的特性を最大化する医科学解析
- 大学や地域の施設を活用したジュニア層の早期発掘・育成
- パラ陸上指導プログラムと経験知を蓄積するデータベースの構築と展開

LAパラリンピックでの野心的ターゲット

- 金メダル獲得 & メダル総数2桁（10個以上）
- 世界最高峰の強化環境を『Team JPA』として構築。



環境・組織：持続可能な基盤と投資価値の創出

挑め未来!

JPA

JAPAN PARA ATHLETICS



地域を軸としたパラ陸上競技の展開

- 7ブロックの地域パラ陸上競技協会との組織体制整備

JAAF連携によるインクルーシブ・プラットフォーム

- 日本陸連との一体的な競技運営、指導者・審判の育成

経営目標：年間協賛金の増加

- パラスポーツ全体として協賛金の減少傾向の中、協賛金を増加させる。
- 数値目標：対2025年度で20%の増加。
- 統合団体としての社会的価値を企業パートナーへ提案
- 透明性の高いガバナンスと、地域への利益還元

誰もが挑戦できるインフラの整備

- 競技用具の普及と、心のバリアフリーの地域への波及

経営戦術：持続可能な成長に向けた戦略的アプローチ

挑め未来!

JPA

1

組織基盤

日本初の統合団体としての
ガバナンス進化

戦術：身体・知的の垣根を越えた「ワン・チーム」の組織運営を深化。

具体策：専門部会における知見の相互共有。ガバナンスコードの遵守と、透明性の高い情報公開による社会的信頼の獲得。

2

財務戦術

共生社会への「投資価値」
による協賛金増加

戦術：従来の「支援・寄付」型から、企業のD&I（多様性と包摂）を推進する「パートナー」型への転換。

具体策：統合団体ブランディングによる希少性の訴求。ESG投資に資するメニューの開発。

3

人的資源・連携戦術

外部リソースの戦略的活用

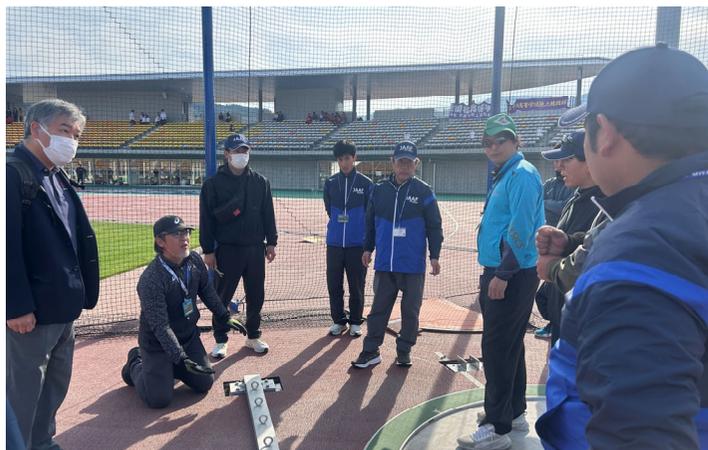
戦術：「自前主義」から「外部連携によるエコシステム」への移行。

具体策：医療連携パスウェイ、大学アライアンス、JAAF・地域陸協連携の構築。

経営戦術（1）組織基盤とガバナンスの進化

挑め未来!

JPA



ワン・チーム運営の深化

- 身体/知的の知見融合による効率的かつ効果的な組織運営の実現
- 次世代を担う指導者、審判、経営人材の計画的な育成

コンプライアンス・ガバナンスの徹底

- ガバナンスコードに基づくセルフチェック、外部監査、達成度の更新
- 規定に従った役員の新陳代謝（在任期間・年齢管理）の実施
- 日本陸連(JAAF)や各障がい者スポーツ団体との積極的な人的交流



経営戦術（2）基本方針：ステークホルダーへの公約

挑め未来!

JPA

競技者・家族

生涯にわたり陸上競技を楽しめる機会の継続的な提供

競技を支える人々

指導者・役員・メディカルの資質向上と活躍の場を創出

スポンサー

露出機会を超えた『組織活性化・D&I推進』の投資価値を提供

ファン

卓越したパフォーマンスとインクルーシブな感動の共有

社会的責任

フェアプレー精神を土台とした透明性の高い組織運営の実践

経営戦術（3）財政健全化と戦略的アライアンス

挑め未来!

JPA



財務目標：年間協賛金 10%増

- 助成金/補助金の確実な確保（ガバナンス遵守による信頼の担保）
- 統合団体ブランディングによる新規『投資型』スポンサーの獲得
- 事業費/管理費の見直しと他団体連携による徹底的な経費削減

外部リソースを最大活用する『エコシステム』の構築

- 医療：『スポーツ処方』による新規会員獲得の自動化
- 大学：共同研究による科学的強化と、学生の人材育成拠点化
- 地域：JAAF・地域陸協との競技運営一体化による普及の全国展開



2026-2030年度 戦略ロードマップ ～インクルーシブ・パスウェイの確立～

挑め未来!

JPA
JAPAN PARA ATHLETES

年度	普及・地域・医療	強化・大学連携	組織・経営
2026	医療連携：スポーツ処方導入開始 自治体：地域発掘モデルの構築	大学：共同研究・医科学支援始動 ジュニア発掘拠点の選定	統合団体の社会的価値を再定義 年間協賛金：5,000万円目標
2027	地域：全国展開とパスウェイ構築 自治体連携による定期体験会	プレ・パラ強化：大学ラボ活用 LAパラ内定者の最終選考	共創プロジェクト（D&I）始動 年間協賛金：5,300万円目標
2028	LAパラ熱狂を会員増へ直結 地域クラブへの誘導を最大化	★LAパラ：金・メダル2桁達成 科学的強化の成果を世界へ証明	成果を活用したブランディング 年間協賛金：5,500万円目標
2029	生涯スポーツモデルの定着 会員数 990名超を達成	次世代（2032）育成への応用 強化モデルの常設化・自立	安定的な経営基盤の完成 年間協賛金：5,800万円目標
2030	★目標達成：会員数 1,000名 インクルーシブな環境の完成	継続的な強化体系の確立 JPA流強化システムの完成	★目標達成：協賛金 6000万円 社会的信頼と投資価値の確立

結びに：共に創る、インクルーシブな未来

2026年から2030年までの5年間は、JPAにとって「統合」から「社会への波及」へと向かう挑戦の期間です。

私たちの真の目的は、数字の達成だけではありません。
陸上競技を通じ、誰もが等しく挑戦し、認め合える社会を創ることです。

アスリート、その家族、指導者、審判、パートナー、そして地域社会。
私たちは陸上競技という一つの大きな家に暮らす『ファミリー』です。

陸上競技の力を信じ、私たちは歩みを止めません。
誰もが主役となれる新しい日本のスポーツ文化を、そしてインクルーシブな未来を、共に創っていきましょう。

